

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-136665

(43)Date of publication of application : 29.05.1989

A61M 5/32

(51)Int.Cl.

(21)Application number : 62-295860

(71)Applicant : OKAZAKI KAZUO

(22)Date of filing : 24.11.1987

(72)Inventor : OKAZAKI KAZUO

## (54) INJECTION NEEDLE STORING CONTAINER

(57)Abstract:

**PURPOSE:** To eliminate possibility of secondary infection and to provide an injection needle storing container simple to handle and inexpensive in cost, by removing the injection needle using a long pore in the container's cover plate.

**CONSTITUTION:** On a cover plate 2 which closes the upper opening of a container 1, a long pore 3 is made for removing in which a broad part to store a flange F of the proximal side of an injection needle N and a narrow part to couple the flange F are combined. The flange F at the proximal end of an injection needle N of a used injection is imparted into the broad part of the long pore 3 of the container 1 for removal so that the cover plate 2 is situated between the syringe T and the flange F of the injection needle N. After the injector is shifted into the narrow part and the flange F at the proximal end of the injection needle N is coupled to the lower surface of the cover plate 2, the syringe T is shifted upward to drop the injection needle N into the container 1. The injection needle N stored in the container 1 is sterilized by a bactericide. When certain amount of injection needles N is stored in the container 1, needles are burnt with the long pore 3 for removed is closed tight using a sealing lid 4. On the other hand, both the syringe T is also stored, sterilized and disposed in other container.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

Searching PAJ

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平1-136665

⑬ Int. Cl.<sup>4</sup>

A 61 M 5/32

識別記号

庁内整理番号

7603-4C

⑭ 公開 平成1年(1989)5月29日

審査請求 未請求 発明の数 2 (全5頁)

⑮ 発明の名称 注射針の収容容器

⑯ 特 願 昭62-295860

⑰ 出 願 昭62(1987)11月24日

⑱ 発 明 者 岡 崎 一 雄 兵庫県芦屋市六ツ瀬町26番7号  
⑲ 出 願 人 岡 崎 一 雄 兵庫県芦屋市六ツ瀬町26番7号  
⑳ 代 理 人 弁護士 高木 義 輝

明 細 書

# 1. 発明の名称

注射針の収容容器

## 2. 特許請求の範囲

(1) 容器の上部開口を閉じる覆板に、注射針基端側のフランジが入る広幅部分とフランジに係合する狭幅部分とを備えた取り外し用の長孔を割設し、密閉蓋で取り外し用の長孔を塞ぐようにしてなる注射針の収容容器

(2) 容器の上部開口を閉じる覆板に、注射針基端側のフランジが入る広幅部分とフランジに係合する狭幅部分とを備えた取り外し用の長孔を割設し、密閉蓋で取り外し用の長孔を塞ぎ、容器に殺菌剤を入れてなる注射針の収容容器

「医療上の利用分野」

本発明は、注射針の収容容器に関するものである。

「従来の技術および発明が解決しようとする問題点」

注射針の針で、医師や看護婦がB型肝炎に感染、

死亡し、大きな社会問題となっている。

厚生省では、使用した注射針を焼却して廃棄するよう指導している。焼却施設を設け、毎日処理している病院もあるが、厚生省の調査では公営や立地条件などの問題から市町村や業者へ処理を依頼しているケースが多く、ヒュール城などに入れるだけで捨てられている例もあり、多数の注射針が廃棄場に野積みされている事例も多発しており、取扱関係者に第2次感染の可能性も高い現状である。

最近、この問題は全国的にも注目されている。

「発明が解決しようとする手段」

そこで、本発明は、上記の事情に鑑み、容器の上部開口を閉じる覆板に、注射針基端側のフランジが入る広幅部分とフランジに係合する狭幅部分とを備えた取り外し用の長孔を割設し、密閉蓋で取り外し用の長孔を塞ぐ注射針の収容容器を提供しようとするものである。

「作 用」

使用済の注射針の注射針基端側のフランジを取り

外し用の長孔の広幅部分に収め注射器を狭幅部分に移動させ注射針基端のフランジを覆板下面に係合させてから注射筒を上方へ引き抜く注射針は落下する。

#### 「実施例」

注射器は、第1図に示すように、注射針Nと注射筒Tとよりなり、注射筒T先端に注射針N基端を外嵌めしたり、あるいはねじ込んだりして連結している。注射針Nの高幅に大径のフランジFが形成してある。

第2、3図に示すように、容器1の上端開口を閉じる覆板2に、注射針N基端側のフランジFが入る広幅部分とフランジFに係合する狭幅部分とが連なる取り外し用の長孔3を形成する。取り外し用の長孔3は図示例に限られるものでなく、要は注射針NのフランジFが入る広幅部分とフランジFに係合する狭幅部分とが連なっておればどのような形状であってもよい。また、容器1はアルミニウム製ビール瓶やジュース瓶などの製瓶を利用することもできる。そして、この容器1の中に

緩衝剤を入れておく。

前述取り外し用の長孔3を兼ね第4図に示すような密閉蓋4を固める。密閉蓋4は容器1の上縁5に内嵌まりし取り外し用の長孔3を密封するように設定する。密閉蓋4の覆板2上面と接する箇所には緩衝剤を散布しその上に紙を張り付けておき、密閉する際、紙をはかしてから密閉蓋4を締め緩衝剤をさせるようにしてもよい。また、取り外し用の長孔3をその部分のみを塞ぐゴム栓などで密閉してもよい。

使用時の注射器の注射針N基端のフランジFを容器1の取り外し用の長孔3の広幅部分に収め注射筒Tと注射針NのフランジFとの間に覆板2が位置するようにし、注射器を狭幅部分に移動させ注射針N基端のフランジFを覆板2下面に係合させてから注射筒Tを上方へ引き抜く注射針Nは容器1内に落下する。容器1内に収容された注射針Nは緩衝剤で消滅される。一定量注射針Nが容器1内に収容されると、密閉蓋4で取り外し用の長孔3を密閉しておき、緩衝剤分する。一万、注射

— 3 —

筒Tも他の容器に収容し緩衝剤処理する。

容器1により注射針Nを取り外す際は、注射筒Tを上方へ引き抜く際、容器1を保持させておく作業が容易となる。

覆板11上に容器1より僅かばかり高い高さの支柱12を介して保持板13を固着し容器1の上縁5より小径の操作孔14を形成しておく。容器1は横方向から操作孔14の直下に入れ、操作孔14から注射筒Tを入れて上方へ引き抜く際、上縁5が保持板13の下面に当接して保持する。なお、保持板13を支柱12にボルトあるいは釘等などを用いて着脱自在に設け、容器1の出し入れを容易にすることもできる。また、容器1の上方側部を保持するようにしてもよい。

#### 「発明の効果」

本発明は、上記のように、容器の覆板の長孔を用いて注射器の注射針を取り外すようにしたから二次感染の虞はなく、しかも簡単にでき、その上安価に提供できる。

4. 図面の簡単な説明

— 4 —

第1図は注射器の正面図、第2図および第3図は本発明の実施例で、第2図はその縦断面図、第3図は第2図の平面図、第4図は密閉蓋の縦断面図、第5図は保持種の側面図である。

- |   |   |     |
|---|---|-----|
| 1 | 容 | 器   |
| 2 | 覆 | 板   |
| N | 注 | 射 針 |
| F | フ | ラ シ |
| 3 | 長 | 孔   |
| 4 | 密 | 閉 蓋 |

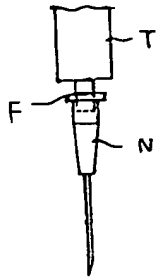
出願人 岡 崎 一 雄  
代理人 高 木 敏 雄

— 5 —

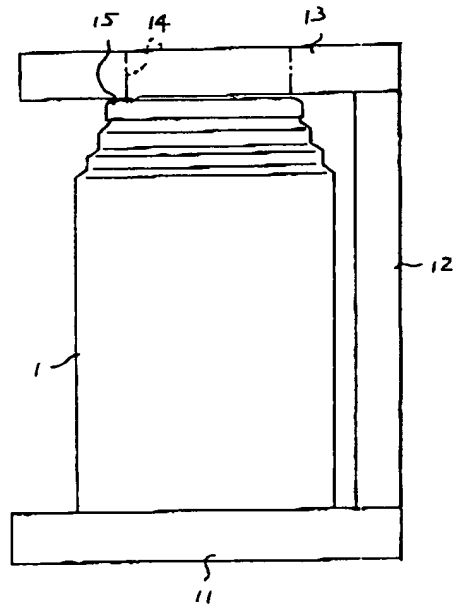
— 392 —

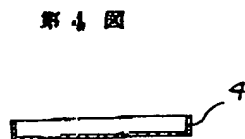
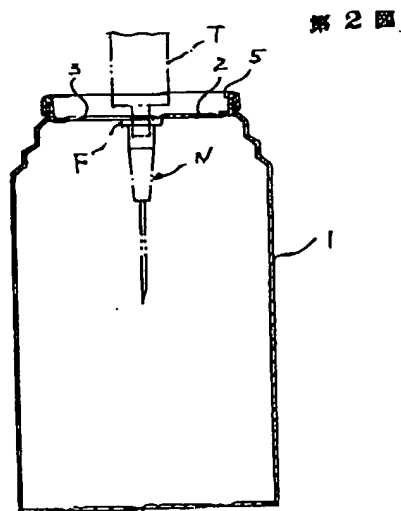
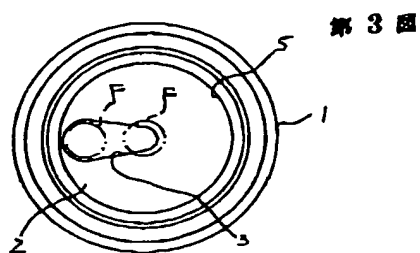
— 6 —

第 1 図



第 5 図





特開平 1-136665(5)

手続補正書 (口書)

昭和63年 2月10日

特許庁長官 小川 邦 天 殿

1. 事件の表示  
昭和62年 特許第 第 295860 号
2. 発明の名称  
注射針の収容容器
3. 補正をする者  
事件との関係 特許出願人  
住 所 芦屋市六盛荘町26番7号  
氏 名 岡 崎 一 雄
4. 代 理 人  
住 所 大阪市西区江戸堀1丁目23番26号  
西八千代ビル  
氏 名 (8053) 弁理士 高 木 義 雄
5. 補正の対象  
明細書の発明の詳細な説明の欄
6. 補正の内容  
明細書の第5頁第14行の次に、



方式  
審査

— 1 —



— 2 —

手続補正書 (方式)

昭和63年 2月10日

特許庁長官 小川 邦 天 殿

1. 事件の表示  
昭和62年 特許第 第295860号
2. 発明の名称  
注射針の収容容器
3. 補正をする者  
事件との関係 特許出願人  
住 所 芦屋市六盛荘町26番7号  
氏 名 岡 崎 一 雄
4. 代 理 人  
住 所 大阪市西区江戸堀1丁目23番26号  
西八千代ビル  
氏 名 (8053) 弁理士 高 木 義 雄
5. 補正命令の日付  
昭和63年 2月3日 (発令日 63.2.23)
6. 補正の対象  
1) 代理権を証明する書面



方式  
審査

— 1 —

「 容器を合成樹脂で形成した場合、加熱すると軟化して嵩か小さくなり取り扱いが容易となる。」を加入する。

以 上

4. 明細書の発明の詳細な説明の項日の記載

7. 補正の内容

1) 代理権を証明する書面は 写を添付して示すように昭和63年2月10日の手続補正書により補充しております。

2) 明細書第1頁第14行の「一収容容器」と第15行の「医薬上の利用分野」との行間に、「3. 発明の詳細な説明」を加入する。

8. 添付書面

1) 昭和63年2月10日付の手続補正書( 答 )

1通

— 2 —